希望の未来へ！あなたと市政のかけ橋に

すずらんジャーナル

船橋市議会議員
はしもと　和子
市民相談はお気軽に
０９０-５５７４-９０７９

２０２２年　第６８号　発行　橋本　和子

男性用トイレにサニタリーボックスの設置を

サニタリーボックスとは、汚物入れのことですが、今や2人に1人ががんと診断される時代になり、早期発見・早期治療で、がんを患っても社会復帰される方が多くいます。

このような中、男性のみが罹患する「前立腺がん」や男性の方が多く罹患する「膀胱がん」の治療後、生活に欠かせない物の一つに「尿漏れパッド」があります。

フェイスビル5階（船橋駅前総合窓口センター）の男性用トイレの個室

多目的トイレには、サニタリーボックスが設置されていますが、男性用トイレには、サニタリーボックスが無く困っている、ということを最近知りました。また、困ってはいるけれども、人に知られたくないから我慢している方もいると思います。

市役所・医療センターをはじめ、設置されていない公共施設への設置を求めました。

令和4年第2回
(5/23~6/24)
定例議会の報告

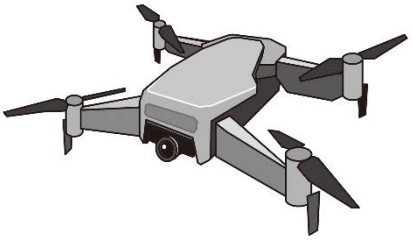
消防「隊員カメラ」の導入

日頃から、市民の安心・安全、人命救助のためにご活躍している消防の皆様、コロナ禍であっても最前線で活躍する救急隊の皆様、心から感謝申し上げます。

消防局には、小型で軽量なヘルメットや身体に装着し撮影することができる「ウェアラブルカメラ」3台と、高精度のカメラを搭載し撮影できる「ドローン」1機があるが、活用方法は。

「ウェアラブルカメラ」は、災害現場において隊員目線で撮影が可能。
この映像は、消防活動の適否を確認するための事後検証をする際の資料とするほか現場経験の少ない若手職員の教育のために、災害現場における隊員の動きや、安全管理対策などに関する資料として活用。

「ドローン」は、主に水難事故における要救助者の捜索に活用。



八千代市消防本部では、今年度、「ウェラブルクラウドカメラ」を試験導入し災害対策を強化しています。八千代市消防本部に行き、話を伺ってきました。
このカメラ装置は、火災現場などから映像が送られてくるため、無線のやり取りでは伝わらない、災害現場の映像が見え、活動中の隊員が、気が付かないことも映像を受ける側でわかり、隊員の増強の必要性についても判断することができるようです。また、このカメラは、小型で軽量なため、多くの機材を身に付けた消防の方たちに適しており、アンテナや配線もなく、突起している部分もないので、活動上邪魔にならないことも、優れている点だと思います。
2011年の東日本大震災では、多くの方が被災しました。また、その後も各地で大きな地震や、気候変動による集中豪雨など、大規模な災害が発生しています。このような中、内閣府では2020年6月に「防災×テクノロジー」タスクフォースを設置し、防災テックを活用するための施策が検討されています。
本市においても、災害現場から消防局に映像が届く「映像伝送システム」を導入すべきと考えますが如何か。

ドローンやスマホを活用し、消防指令センターで災害情報を共有できるシステムの導入を検討中。「ウェアラブルカメラ」を活用した「映像伝送システム」は現場の状況だけでなく、隊員の活動についてもリアルタイムで警防本部に映像が送られてくるので、特に延焼中の建物に屋内侵入して活動する隊員の安全管理を行う際には、大変有効であると考えている。

難聴は認知症の最大の原因

聴力が低下すると、相手の声が聞き取れず、話の内容もよくわからなくなり、本人にとってはとてもつらいものですが、実は周囲の人も、同じことを繰り返したり、大きな声で話さなければならず、ストレスとなってしまうこともあります。そうすると、本人は、周囲の人に負担をかけている自分に気が付き、やがて話をしなくなります。

難聴のためにコミュニケーションがうまくいかなくなると、人との会話を避けるようになり、次第に、気分が落ち込んで憂鬱な気分になり、外に出るのが嫌になり、社会的にも孤立してしまう危険もあり、社会的に孤立すると認知症にもなりやすくなります。

補聴器の適切な利用を！

メガネは、検査をしてから購入する。補聴器は、使いながら、調整をするため、自分の耳に合うまで数か月かかる。

補聴器の使用にあたり、一定期間におよぶトレーニングが必要であることを知らないために、雑音が大きくなってうるさいとか、耳に馴染まないと感じて、補聴器を有効活用できない人がいます。なぜこのような状況が生まれるのでしょうか。問題は、補聴器を販売する際に、正しい情報提供が行われていないことです。

補聴器は認知症予防にもつながります。補聴器の購入費助成を「認知症の危険因子の一つとされている高齢者の難聴の早期発見と安心して購入できる体制づくり」のために、対象の拡大はもちろんですが金額も上げて欲しいと思います。

難聴や補聴器が必要かどうか判断する「補聴器相談医」の受診や、調整やアフターケアを行う販売店での購入などを費用助成の要件とするなど、医師会や専門家などと意見交換をし、市民の皆様が安心して補聴器を使い続けられるようにしていただくように要望しました。

所得税非課税世帯で上限2万円の助成

小学校１・２年生の全普通学級に電子黒板を整備

約10年前に、電子黒板の導入を提案しました。
当時は、国の補助が10分9ということもあり、船橋市では、各学校ワンフロアーに1台、導入することが決まりました。しかし、その後、政権が変わり、国の補助対象とならなくなり電子黒板の導入は断念されました。
その後も何度も取り上げ、導入効果を確認し必要性を訴えてきたところ、総合教育センターでは、計画的に導入を進め、今年度で全小中学校の普通教室と特別支援学校（一部を除く）に、整備できたことに感謝申し上げます。
輝く未来の子どもたちが、ICT社会の中で機器になれ、興味を持って授業に臨んでほしいと思います。

（塚田南小学校の電子黒板）

がん教育

教材のひとつとして、日本放射線腫瘍学会が作成をした「アニメで学ぶがんの放射線治療」を紹介します。内容は、中学生らしい女の子の携帯に祖父からメール。「がんになった。放射線治療で治す」といった内容。心配になった女の子が「放射線治療ってどんなこと？」と疑問を持ったことからスタートします。YouTubeで「最先端科学でがんと闘う」をぜひご覧ください。

はしもと　和子　090-5574-9079

ホームページ hashimoto-kazuko.jp

市政に関するご意見・ご要望をお寄せください。

S.35年　長野県軽井沢町生まれ　小諸商業高等学校卒業
八十二銀行入行　S.57年より船橋市在住　H.27年より保護司